

- 問1 縄文時代の人が製作した「土偶」について、その特徴や目的を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2023年 徳島公立入試 類似)
1. 安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式的道具として用いられた。
 2. 亡くなった有力者の権力を示すために、巨大な墓の周囲に並べる装飾として作られた。
 3. 大陸から伝わった稲作技術とともに、収穫した稲の穂を摘み取るための道具として広まった。
 4. 武士が戦場に赴く際、勝利を祈願して寺社に奉納するための供え物として作られた。
- 問2 縄文時代に作られた、まじないや豊かな収穫、安産などを祈るために用いられたとされる、人や動物をかたどった土製品を何といいますか。 (2019年 山形公立入試 類似)
1. 土偶
 2. 埴輪
 3. 青銅器
 4. 石包丁
- 問3 縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた
 2. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた
 3. 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさを祈るために作られた
 4. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた
- 問4 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。 (2025年 北海道公立入試 類似)
1. 三内丸山遺跡
 2. 吉野ヶ里遺跡
 3. 登呂遺跡
 4. 岩宿遺跡
- 問5 約1年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた
 2. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された
 3. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した
 4. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた
- 問6 縄文時代の遺跡である貝塚の周辺から発見される、表面に縄目などの特徴的な文様が施された道具について、その主な使用目的を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。
 2. 収穫した稲を長期間蓄えるための、貯蔵専用の器として主に用いられた。
 3. 亡くなった人を埋葬する際に、副葬品として納める祭祀専用の道具として用いられた。
 4. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を加工するための、高温の炉として用いられた。
- 問7 日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2023年 徳島公立入試 類似)
1. 三内丸山遺跡 — 縄文時代
 2. 吉野ヶ里遺跡 — 弥生時代
 3. 登呂遺跡 — 弥生時代
 4. 三内丸山遺跡 — 弥生時代
- 問8 縄文時代の遺跡に関する調査報告において、「集落の近くから丸木舟が発見されたこと」と「大規模な貝塚が形成されていたこと」が同時に示される場合があります。これらの事実から導き出される、当時の人々の生活背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)
1. 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。
 2. 大陸との公的な交易を行うため、大型の船を建造して組織的な外交を行っていた。
 3. 稲作が普及したことで定住が進み、余った食料を貯蔵するために大規模な施設を作った。
 4. 集落間の争いが激化したため、外敵の侵入を防ぐ目的で集落の周囲に堀を巡らせた。
- 問9 縄文時代において、人々が定住生活を送る中で作り出した遺物のうち、表面に縄目の文様が見られることが多く、食物を煮たり保存したりするために活用された道具の名称とその特徴として適切なものはどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 高温で焼かれた灰色で硬い、貯蔵用の須恵器
 2. 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器
 3. 薄手で赤褐色をしており、文様が少なく実用的な弥生土器
 4. 古墳の頂上や周囲に並べられた、人物や馬の形をした埴輪
- 問10 縄文時代における人々の生活環境の変化と、道具の使用に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)
1. 大陸から稲作が伝来したことで、収穫した穀物を大量に貯蔵するための薄くて赤褐色の土器が広く普及した。
 2. 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。
 3. 氷河期の影響で大型の獣を追う移動生活が中心となり、獲物を仕留めるために磨製石器が初めて登場した。
 4. 有力な首長が各地に出現し、集落を守るための環濠や、身分を象徴する豪華な副葬品としての土器が作られた。
- 問11 ある中学生が地元の歴史博物館で調べた内容をまとめた報告書の中で、「市内で発掘された、表面に縄を転がしたような模様がある土器」について記述しています。一万数千年前から紀元前数世紀まで続き、このような土器を使って狩猟・採集・漁労を主とする生活が行われていた時代を何といいますか。 (2016年 富山県公立入試 類似)
1. 旧石器時代
 2. 縄文時代
 3. 弥生時代
 4. 古墳時代
- 問12 紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)
1. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた
 2. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた
 3. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた
 4. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いつながら移動して生活していた
- 問13 縄文時代における自然環境の変化と人々の暮らしの関係について、正しい背景を説明しているものはどれですか。 (2022年 山口公立入試 類似)
1. 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。
 2. 寒冷化によって大型動物が絶滅したため、人々は食料を求めて移動を繰り返す洞穴での生活を余儀なくされた。
 3. 大陸と陸続きになったことで新たな家畜が持ち込まれ、広大な牧場での放牧を主体とした生活へと移行した。
 4. 激しい気候変動を乗り切るために、共同体で大規模な金属器の生産を行い、近隣の集落と食料を奪い合う戦争が日常化した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式の道具として用いられた。	土偶は、縄文時代の人々が自然界の精霊や生命力を崇める中で生まれた道具です。女性を模した形が多いことから、安産や豊作といった「産み出す力」への願いが込められていたと考えられており、祭祀や呪術（まじない）の道具として用いられました。他の選択肢にある「有力者の墓（古墳）の周囲に並べる」ものは古墳時代の埴輪を指します。
問2	答え 1 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信仰しており、食物の豊穡や子孫繁栄を祈るために、女性をかたどった人形（ひとがた）などの土製品を作りました。これに対し、古墳時代の古墳の周囲に並べられた土製品は埴輪と呼ばれ、目的や時代が異なります。
問3	答え 3 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。
問4	答え 1 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問5	答え 1 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問6	答え 1 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。	縄文土器の出現は、それまで生で食べていた食料を「煮炊き」することを可能にしました。これにより、硬い木の実やアクのある植物も食用にできるようになり、食料の「保存」も容易にするなど、当時の生活を大きく安定させました。稲作が本格化し、貯蔵用としての機能がより特化していくのはのちの弥生時代のことです。また、祭祀に使われることもありましたが、主な用途は生活に密着した調理や保管でした。
問7	答え 1 三内丸山遺跡 — 縄文時代	青森県で発見されたこの遺跡は、縄文時代における日本最大級の集落跡です。大型の掘立柱建物や多数の竪穴住居の跡が見つかっており、当時の定住生活の様子を詳しく伝える重要な史跡です。佐賀県の吉野ヶ里遺跡や静岡県県の登呂遺跡は、いずれも弥生時代の代表的な遺跡であり、縄文時代には含まれません。
問8	答え 1 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。	丸木舟は水上移動や漁具として使われ、貝塚には魚の骨や貝殻が大量に含まれていることから、当時の人々が自然の恵み（特に水産資源）を巧みに利用して生活していた背景がわかります。組織的な外交や本格的な稲作、集落を守るための堀（環濠集落）などは、主に弥生時代以降に顕著になる特徴です。
問9	答え 2 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器	縄文時代の人々は、定住生活を営む中で土器を発明しました。この土器は低温で焼かれるため厚手で黒褐色になるのが特徴です。煮炊きが可能になったことで、それまで食べられなかった植物の灰汁（あく）を除いたり、固いものを柔らかくしたりして食べられるようになり、食生活が安定しました。
問10	答え 2 0 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。	縄文時代は地球の温暖化に伴い、木の実などの植物性食料や魚介類が安定して得られるようになりました。これにより人々は竪穴住居を作って定住するようになり、硬い木の実を煮てアクを抜いたり、煮炊きをしたりするための道具として土器が重要な役割を果たすようになりました。選択肢にある稲作の普及や薄手の土器（弥生土器）は、その後の弥生時代の特徴です。
問11	答え 2 1 縄文時代	氷河期が終わり、気候が温暖になったことで、日本列島では弓矢を用いた狩猟や豊かな海産物をとる漁労、木の実の採集が盛んになりました。この時代に使用された、表面に縄目の文様がある土器は「縄文土器」と呼ばれ、食料を煮炊きしたり保存したりするために活用されました。
問12	答え 1 2 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた	この時期の日本は縄文時代にあたります。人々は縄文土器を使って、植物の採取や狩猟で得た食料を煮炊きして食べるようになりました。また、地面を掘り下げて柱を立て、屋根を葺いた「竪穴住居」を作ることで、定住的な生活が営まれていました。他の選択肢は、弥生時代、古墳時代、旧石器時代の特徴です。
問13	答え 1 3 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。	地球の温暖化は植生に大きな影響を与え、日本列島にはクリ、クルミ、ドングリなどの実をつける豊かな森林が形成されました。縄文時代の人々は、これらの木の実を採集し、アク抜きなどの加工を施して食用にする技術を確立しました。また、入り組んだ海岸線（リアス海岸）が形成されたことで、魚介類も豊富になり、貝塚が作られるほど漁労も盛んになりました。この安定した食料事情が、竪穴住居による定住生活を支える要因となりました。